

『羅葡日辞書』の錯誤と製作工程

岸本 恵 実

0. はじめに

キリシタン版『羅葡日辞書』(*Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum*, 1595 天草刊) はアンブロージョ・カレピーノが作ったラテン語辞書カレピヌスをもとに、日本イエズス会の複数の編者によってポルトガル語訳・日本語訳が付されたものであるが、現存諸本の本文 906 ページには多数の錯誤が含まれており、一部は巻末の正誤表や書き入れによって訂正されている。また、このような錯誤と訂正は、この辞書を主要な典拠とするマノエル・バレット自筆の『葡羅辞書』(*Vocabulario Lusitanico Latino*, 1606-1607 写) にも取り込まれている。本稿はこれらの錯誤と訂正を分析し、『羅葡日』製作工程の実態に近づこうとする試みである。

『羅葡日』に錯誤が多数生じた原因としては、ヨーロッパ将来の印刷機による印刷物として比較的早い時期のものであり、かつそれまでにない規模の大部な書であったこと、三種類の言語を含むことなどがあげられよう。

さらに、Kishimoto (2006) で推測したように『羅葡日』の翻訳はカレピヌスのラテン語からポルトガル語抄訳が、ポルトガル語訳・原典のラテン語から日本語訳が作られるという手順で行われたとみられ、原稿作成段階での誤訳・誤写も起こりやすかったと考えられる。

製作最終段階での慌しさについては、1595 年 10 月 12 日付長崎発ペドロ・ゴーマス(当時日本準管区長)のイエズス会総長宛書簡において報告されている。Laures (1957) によると、1579 年来日したアレッサンドロ・ヴァリニャーノは 1581 年ごろに「カレピーノによる『羅日辞書』および『ラテン文典』の編纂と印刷」を命じ、1589 年には「少なくともあと 2 年くらいで仕上げたい」と記しているが、ゴーマスの書簡によると実際『羅葡日』印刷が開始されたのは『ラテン文典』後の 1595 年 2 月のことであった。

その印刷(筆者注・『羅葡日』を指す)は休んでいたわけではないのです。我

らのイルマンならびにセミナリオの子供たちの日本語の勉強に絶対不可欠なことに鑑み、日本語を良く理解し、ラテン語・ポルトガル語に通曉している我々三人と、日本語を知悉し、ラテン語を修得した日本人イルマン二人を加えた五人は、それに専心するため他の仕事はしなくても良いとの命令を下されました。そしてこの五人はカレピーノを簡略にするために、人名や余り使用しない固有名詞を省いて、その他の残りの部分全部をポルトガル語と日本語とに翻訳しました。その事は充分気を付けてやったつもりです。そして十五ヶ月かからずに完了しました。他方、この翻訳原稿の印刷は全力を尽くしてやってくれているので、その完了には八ヶ月はかからぬ見込みです。即ち聖マチヤスの日（二月二十四日）から開始しているので、十月十五日以前には完了することとなりましょう。⁽¹⁾

本稿では、このようにして製作された『羅葡日』の錯誤について、カレピヌスおよびバレット『葡羅辞書』との対照が可能なラテン語部分を中心に、訂正のあり方によって訂正されないままの本文・正誤表・書き入れの三つに分類し、さらにそれらがバレット辞書にどのように取り込まれているかを分析していく。

なお、岸本（2005）により『羅葡日』原典は1570年リヨン版カレピヌスの系統の可能性が大きいと考えられるので、本稿では典拠に近い版として1570年リヨン版（ラテン語・ヘブライ語・ギリシャ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ドイツ語の対訳）を用い、補足的にその増補版である1585年リヨン版を参照した。またバレット辞書もカレピヌスを典拠の一つにしているが、岸本・豊島（2005）に述べたようにヴェネチア版の系統が用いられたとみられるため、成立年に近い1605年ヴェネチア版⁽²⁾を参照した。

1. 『羅葡日』現存諸本に見る錯誤と訂正

以下では、筆者が影印を見ることのできた『羅葡日』5本（オックスフォード大学本、フランス学士院本、ライデン大学本、ロンドン大学SOAS本、旧北堂図書館本⁽³⁾）における錯誤および訂正の内容を概観する。引用は、『羅葡日』はオックスフォード大学本、カレピヌスは注記しない限り1570年リヨン版リスボン国立図書館本を用いている。

1. 1. 訂正されていない本文中の錯誤

『羅葡日』本文には、正誤表でも書き入れでも訂正されていない錯誤が数多く見受けられる。以下はラテン語見出しの例であり、例1ではs (1570年リヨン版の活字は長いf) をtと、例2では、cをs (活字は長いf) と間違っている。

例1 **Ableptia, ae.** [正しくは Ablepsia・盲目] ⁽⁴⁾

『羅葡日』: 4

Ableptia, ae. Lus. Cegueira, & inconsideração. Iap. Buxian, guchi.

Calepinus: 7

Ablepsia, Latinè caecitas, & inconsiderantia, ...

例2 **Gelisidium, ij.** [正しくは Gelicidium・氷結]

『羅葡日』: 307

Gelisidium, ij. Lus. Caramelo. Iap. Côri.

Calepinus: 529

Gelicidium, dij, Ipsum gelu, & concretio aquae. ...

1. 2. 正誤表記載の錯誤

『羅葡日』錯誤の一部は巻末の約2ページ半、164項目(164見出し分)ある正誤表により訂正されている。言語で分類すると以下のように日本語を含むものが最も多いが、カレピヌスを参照したはずのラテン語の誤りも少なくない。

ラテン語含む	63
ポルトガル語含む	28
日本語含む	81

内容は1、2文字程度の誤植や脱文を訂正する比較的単純なものが多数を占め、8割以上は正確な訂正であるが、改訳、正誤表そのものの錯誤など作業の混乱を窺わせるものがある。実際の例を見ていこう。

1. 2. 1. 正誤表により訂正された錯誤

以下2例はラテン語見出しの綴りに関するもので、カレピヌスと同じに訂正されている。

例3 **Horóspicus.** [正しくは Horoscopus・時を示す(もの)]

『羅葡日』: 333

Horóspicus. Lus. Parte do ceo q̃ cada hora se vai aleuantando do oriente. Iap. Fitotoqino aidani figaxiyori meguri agaru tenno bunuo yū. ...

『羅葡日』: 正誤表

Horospicus. Horoscopus.

Calepimus: 576

Horoscopus, pi, ...

例4 **Ipsulces.** [正しくは Ipsullices・鍍金の人形]

『羅葡日』: 398

Ipsulces. Lus. Figuras de homẽs feitas de oropel. Iap. Chũjacuno ninguiõ.

『羅葡日』: 正誤表

Ipsulces. Ipsullices.

Calepimus: 661

Ipsullices, ...

改訳の指示は20項目ほどあることから、訳文の確認が十分でないまま印刷に回され、編纂者自身が正誤表作成に携わったとみられる。ほとんどが例5のように日本語訳に関するものである。

例5 **Lacteo, es.** [乳を飲む、乳を含む]

『羅葡日』: 407

Lacteo, es. ... ¶ Lactent frumenta. Lus. Irse fazendo branco otrigo, ceuada, &c. Iap.

Irozzuqitaru mugui nado.

『羅葡日』: 正誤表

Lacteo. ¶ Lactêt frumẽta. Iap. Irozzuqitaru mugui nado. Mugui nado irozzuqu.

1. 2. 2. 正誤表の錯誤と思われるもの

先にふれたように、正誤表自体の錯誤と思われるものも少なくない。以下は正誤表が不要な「訂正」を指示している例である。

例6 **Cynomyia, ae.** [ハエの一種、またはオオバコ属の植物]

『羅葡日』: 182

Cynomyia, ae. Lus. Mosca de cão, boy, &c. Iap. Inubai, vxibai. ¶ Item, Hũa erua. Iap. Aru cusano na.

『羅葡日』: 正誤表

Cynomyia. Cynymioa.

Calepinus: 336 (1585年リヨン版も同じ綴り)

Cynomyia, ...

以下も根拠不明の「訂正」で *Postomis* を *Postomos* にしており、また見出しの順について *Postomis* が *Postpono* より上に来るはずであるのに逆になっている。

例7 **Postomis, idis.** [馬の鼻に入れて抑える道具]

『羅葡日』: 605

Postomis, idis. Lus. Aziar ã poë aos caualos. Iap. Aravmanofanauo xemuru dögu, fiöxi. Postpôno, is, posui, positum. ...

『羅葡日』: 正誤表

Postpono. Iap. Tçuguni suru. Tçuguini suru.

Postomis. Postomos.

Calepinus: 982 (1585年リヨン版も同じ綴り)

Postomis, postomidis, ...

Postpono, postponis, postposui, postpositum, ...

このほか正誤表では、諸本により多少異なるが、引用されている本文が実際の本文と異なるものがアセント符号の違いを除き *Nautepibate* など 11 項目、本文がすでに訂正済みになっている項目が *Niuális, e.* など 5 項目以上あり、本文・正誤表

印刷における校正作業の慌しさが窺われる。

1. 3. 書き入れにより訂正された錯誤

正誤表のほか、現存する『羅葡日』諸本には書き入れによる訂正が少なくない。5本に見られる48種類の書き入れを報告した岸本(2002)では、正誤表にはないのに諸本に共通する訂正が多いことを指摘し、印刷後それほど月日の経たないうちにある程度まとめて書き入れられた可能性が大きいと推測した。正誤表と同じ内容の書き入れは3種類ほどあるが、以下のような正誤表にないものが少なくとも45種類ある。正誤表とともにこれらの訂正も、『羅葡日』製作工程において校正が十分でなかったことを示すものである。

例8 Ri (s) cus,i [正しくは Riscus・革かばん]

『羅葡日』: 701

i と c の間に s が挿入されている。

**Ricus, i. Lus. Canastra encourada. Iap. Caua
uo qixetaru faneca usgo.**

Calepinus: 1100

Riscus, risci, ...

例9 Ebu (l) lio, is [正しくは Ebullio・噴出する]

『羅葡日』: 230

u と l の間に l が挿入されている。

**l E ANTE C.
Ebulio, is. Lus. Feruendo tresbordar, fer-
uer em burbulhoins. Iap. Taguiri cobo-
ruru, yudama vaqi coboruru. q Item, Di-
zer, ou mostraralgua cousa com ostenta-
ção. Iap. Chibunni focorre monouo yã,
chibunuo manjite monouo arauafu.**

Calepinus: 409

Ebullio, is, Effervesco, & inter bulliendum effundor: ...

2. 『羅葡日』の錯誤とバレット辞書との対照

次に、『羅葡日』の錯誤を写したもう一つの資料として、マノエル・バレットの自筆写本『葡羅辞書』に目を移したい。この辞書は、岸本・豊島(2005)に述べたように教会文書用のラテン語作文に役立てることと全ポルトガル語語彙を網羅することを意図とし、序文にあげた数多くの資料をもとにポルトガル語を配列してラテン語訳と用例を付したものであるが、典拠の中でも、ヨーロッパで印刷され将来されたジェロニモ・カルドーゾの『葡羅辞書』、カレビヌス、マリウス・ニゾリウスの『キケロ用例辞典』とともに、日本で編纂・印刷された『羅葡日』が大いに活用されていることが本文から明らかである。

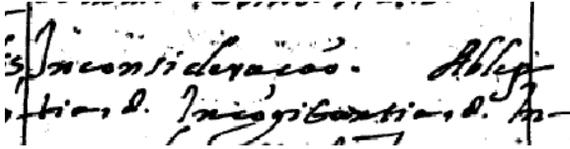
2. 1. 訂正されていない本文中の錯誤について

バレットは序文でさまざまな編集方針をあげており、諸資料を必ずしも忠実に引用しているわけではないが、例1・2にあげた『羅葡日』の錯誤についてはバレット辞書にもそのまま引き写されている。

例1' Ableptia, ae. [正しくは Ablepsia]⁽⁵⁾

バレット: v.2-351

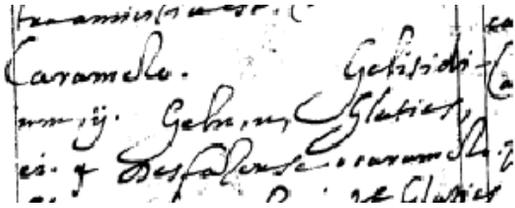
Inconsideraçõ. Ableptia, ae. とあり、『羅葡日』と同じく t になっている。



例2' Gelisidium, ij. [正しくは Gelicidium]

バレット: v.1-12v

Caramelo. Gelisidium, ij. とあり、『羅葡日』と同じく s になっている。



一方、『羅葡日』の錯誤をバレットが独自に訂正したように見えるものもある。以下の例では、本文においてcをs（活字は長い）と間違い正誤表でも書き入れても訂正していないものを、バレットは正しく書いている。

例10 Nostiluca, ae. [正しくは Noctiluca・夜輝くもの、月]

『羅葡日』: 493

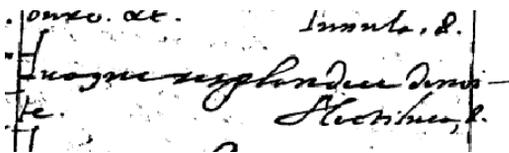
Nostiluca, ae. Lus. Lũa que resplandece de noite. Iap. Yoruuo terasu tçuqi. ...

Calepinus: 835

Noctiluca, ...

バレット: v.2-433

Lua que resplandece de noite. Noctiluca, ae. とあり、『羅葡日』とは綴りが異なっている。



2. 2. 正誤表について

正誤表と対照させると、バレットが『羅葡日』本文と同じように（正誤表とは異なるように）書いている箇所が少なくとも19例（ラテン語15・ポルトガル語4）あり⁶⁶、正誤表と同じように書いているのは7例（ラ2・ポ5）ある。

バレット辞書が『羅葡日』本文と同じになっている（正誤表の訂正と異なっている）例

正誤表	言語	訂正の種類	バレット
Citerior. Lus. Mais dalẽ. Cousa que esta mais dalem.	ポ	改訳	v.2-446
Conscindo. Lus. Escarnecer, &c. Escarnecer, e zombar dalguem asuuiando.	ポ	改訳 (追加)	v.3-550
Diacopij. Diacopi.	ラ	綴り	v.1-18v
Distingo. Distinguo.	ラ	綴り	v.1-611v
Electus, i. Electus, a, um.	ラ	変化形	v.2-7v
Enno. Eno.	ラ	綴り	v.2-86
Furio. Furo.	ラ	綴り	v.1-532
Horospicus. Horoscopus.	ラ	綴り	v.3-71
Interscarmium. Iap. Rongui. Interscalmiũ. Iap. Rogui.	ラ・日	綴り	v.2-107
Ipsulces. Ipsullices.	ラ	綴り	v.2-222
Libella. ¶ Item, Plumbo. Prumo.	ポ	綴り	v.3-132
Pascha, ae. Pascha, atis.	ラ	変化形	v.3-75
Petere tactum. Petere tactu.	ラ	綴り	v.3-61
Postomis. Postomos.	ラ	綴り	v.1-237
Qualis, l, Queliscunq;. Qualis qualis, Qualiscunq;.	ラ	綴り	v.3-204
Reuincio. Lus. Atar atras. Atar as maõs atras.	ポ	改訳 (追加)	v.1-216
Scroodon. Scordon.	ラ	綴り	v.1-106v
Soror. Sorores palmidae. Sorores palmulae.	ラ	綴り	v.3-60v
Valuali. Valuuli.	ラ	綴り	v.3-251

例11 Libella, ae. [鉛錘、硬貨など]

『羅葡日』: 418

Libella, ae. ... ¶ Item, Plũbo, ou oliuel. Iap. Bãjõ, ixiqirino saguesumi dõgu, sumicane.

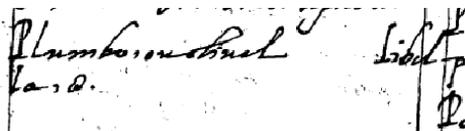
『羅葡日』: 正誤表

Libella. ¶ Item, Plumbo. Prumo.

バレット: v.3-132

Plumbo, ou oliuel. libella, ae. とあり、ũ と um の綴りの違いはあるが、『羅葡日』本

文の方とほぼ同じである。



上の 19 例は、ほとんどが正誤表で的確に訂正されている¹⁹⁾にもかかわらずバレット辞書では採用されておらず、バレットが正誤表を参照していたとは言い難い。一方、正誤表と同様に正しいかたちで書かれている以下の 7 例のうち、5 例はポルトガル語の綴りと訳に関するもので、バレットが自分で訂正したことも十分に考えられる。また、Solum の小見出し Natale solum の例には注目すべきである。

バレット辞書が正誤表の訂正と同じになっている例

正誤表	言語	訂正の種類	バレット
Euallesco. Eualesco.	ラ	綴り	v.3-422v
Interminatus. Lus. Cousa sem temo. Sem termo.	ポ	改訳・綴り	v.3-312v
Praeterabo. Praeterago.	ラ	綴り	v.1-387v
Retineo, es. Lus. Deprimir. Reprimir.	ポ	綴り	v.3-258
Soboles. Lus. Desedentes. Descendentes.	ポ	綴り	v.1-357
Solum. ¶ Natale solum. (Adde) Lus. Patria. Iap. &c.	ポ	追加	v.3-80v
Timiditas. Lus. Temro. Temor.	ポ	綴り	v.3-376

例12 Natale solum [出生地]

『羅葡日』: 752

Solum, i. ... ¶ Natale solum. Iap. Xócocu, coqiô. ...

**Solum, i. Lus. Coufa que sustenta outra
como fundamento della. Iap. Giban, do
dai, l, monono suua idocoro. ¶ Itê, So-
la do pee. Iap. Axino vra. ¶ Itê, Terra,
ou chão. Iap. Tçuchi, gi. ¶ Natale solum.**

**S ANTE O.
Iap. Xócocu, coqiô. ¶ Vertere solum.**

『羅葡日』：正誤表

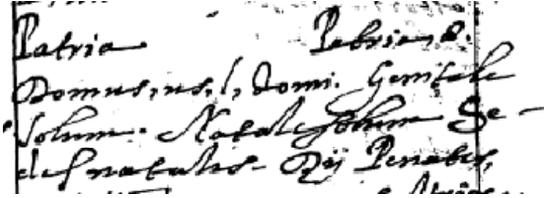
Solum. ¶ Natale solum. (Adde) Lus. Patria. Iap. &c.

Calepinus: 1177-1178

Solum, li, ... ¶ Propriè tamen solum terra dicitur: vnde Natale solum dicimus, pro patria in qua nati sumus: ...

バレット: v.3-80v

Patria. ... Natale solum. ...



刊本では左右の欄の変わり目でポルトガル語訳 *Patria* を落としてしまったのを、正誤表で補っている。バレット辞書の *Patria* — *Natale solum* の対訳は『羅葡日』が典拠と思われるが、バレットが正誤表やカレピヌスなどを参照して対訳を付けたとするより、彼の手元にあった『羅葡日』にもともと *Patria* があったとする方が蓋然性が高い。つまり、バレットが見た『羅葡日』は刊本以前の原稿であった可能性があり、その仮説はバレット辞書が正誤表における訂正の多くを反映していない事実とも矛盾しない。またさらに言えば、正誤表の訂正対象項目には原稿段階での錯誤と印刷段階での錯誤があり、バレット辞書で正誤表による訂正を行っていないように見える箇所は原稿段階からの錯誤を含み、訂正したように見える箇所は、原稿では正しかったのに印刷段階で誤ったものを含む、ということになる。

2. 3. 書き入れについて

しかし印刷前原稿とはいっても何種類か作成されたであろうし、バレットが参照した『羅葡日』の復元が容易でないことは、バレット辞書と『羅葡日』の書き入れ訂正との関係を見ても明らかである。『羅葡日』のうちバレットが引用する可能性のあったラテン語・ポルトガル語部分について、正誤表に見えない書き入れが少なくとも 16 種類確認されている。バレット辞書ではこのうち、訂正されていない刊本と同じ箇所が 1 箇所、訂正後と同じなのが 4 箇所あり、正誤表の場合と同様に推

定すれば前者が原稿段階からの誤り、後者が印刷段階での誤りを含むと思われる。

バレット辞書が書き入れ前と同じく誤っている例

見出し	言語	書き入れ前	書き入れのある刊本*	書き入れ後	バレット
Coriaci (e) us, a. um.	ラ	Coriacius	O, F, L, S, B?	Coriaceus	v.1-418

*O・オックスフォード大学本、F・フランス学士院本、L・ライデン大学本、S・ロンドン大学 SOAS 本、B・旧北堂図書館本を示す。「?」は書き入れがあるように見えるもの。以下の表も同じ。

バレット辞書が書き入れ後と同じになっている例

見出し	言語	書き入れ前	書き入れのある刊本	書き入れ後	バレット
Cuspis, dis.	ポ	Suspeito.	O, F, L, S?, B?	Espeto.	v.2-117
Factio, onis.	ポ	Remolta	O, F, L, S, B?	Reuolta	v.3-271
Integre (a) sco, is.	ラ	Integresco	O, F, S, B	Integrasco	v.3-251
Ri (s) cus, i.	ラ	Ricus	O, F, L, S, B	Riscus	v.1-304v

しかし、複数箇所に見える Ebu (l) lio, is. と Remarcel (cres) co, is, cui. には、次のようにバレットの綴りにゆれが見られる。

バレット辞書の綴りにゆれのある例

見出し	言語	書き入れのある刊本	バレット
Ebu (l) lio, is.	ラ	O, F, L, S, B	書き入れ前の Ebulio に同じ (2) (v.2-214v, v.2-519v) 書き入れ後の Ebullio に同じ (1) (v.2-215)
Remarcel (cres)- co, is, cui.	ラ	O, F, L?, S	書き入れ前の Remarcelco に類似 (1) (v.2-17v) 書き入れ後の Remacresco に同じ (1) (v.2-17v)

例9' Ebu (l) io, is [正しくは Ebullio]

バレット: v.2-214v

Feruendo tresbordar. Ebulio, is.

v.2-215

Feruer em burbulhoins. Ebulio, is. p. i. Inter buliendū effundor. Vt,

v.2-519v

Mostrar alguã cousa com ostentaçaõ. Ebulio, is. ...

例13 Remarcel (cres) co, is, cui [正しくは Remacresco・やせ細る]

『羅葡日』: 687

Remarcelco と印刷したのを Remacresco と修正したように見える。

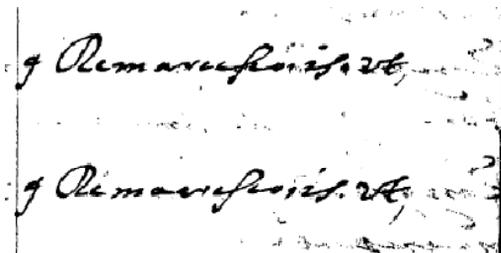
**Remacresco, is, cui. Lus. Enmagrecer. Ip.
Yafuru.**

Calepinus: 1080

Remacresco, scis, scere. ...

バレット: v.2-17v

Remaresco, is, Vt, / Remacresco, is, Vt, に見える。



Ebu (I) lio, is.についてはカレピヌスも参照したためにゆれが生じたと考えられるが、Remarcel (cres) co, is, cui. の方はポルトガル語 Emmagrecer の訳に、どちらも『羅葡日』によったとみられる空見出しの Remaresco, is. (誤・書き入れ前に類似) と Remacresco, is. (正・書き入れ後に同じ) が併記されており、実際バレットの見た『羅葡日』にはどのように書かれていたのか不明である。

このように、バレットが典拠とした『羅葡日』がどのような形態であったか明らかにするにはバレットの引用態度や他の典拠を考慮しなければならず、さらに検証を積み重ねることが必要である。しかし『羅葡日』の製作工程を考える際、カレピヌスと現存諸本との対照だけでなく、バレット辞書が重要な手がかりになることは確かである。

3. まとめ

『羅葡日』本文・正誤表・書き入れから、原典カレピヌスの転写、ポルトガル語訳・日本語訳書写などの原稿作成と、植字、校正などの印刷作業における複数の工程で錯誤が生じていたこと、またその訂正もほぼ同時進行的に複数の段階で行われたことが窺い知られる。そしてバレットという書写者を通してはいるが、バレット辞書からもそのような製作工程を映した、現存諸本とは異なる『羅葡日』の様相を見出すことができる。

〈注〉

- (1) Alvarez-Taladriz (1958) の表記・文体を一部私に改めた。
- (2) Labarre (1975:84-86) によれば、1600年・1602年のヴェネチア版と同本文である。
- (3) 旧北堂図書館の別本がラウレス(1937)に、旧レニングラード国立大学本が村山(1966)に報告があるが、いずれも未見である。また『羅葡日』には18世紀半ばジョアン・アルバレスがマカオにおいて刊本から転写したアジュダ図書館写本、19世紀ペルナルド・プチジャンがポルトガル語を除き再編した『羅日辞書』(*Lexicon Latino-Iaponicum*, 1870 ローマ刊)も現存するが、いずれも時代の下る資料であることから本稿では調査の対象としなかった。
- (4) 以下の例において、□は『羅葡日』本文の見出し、[]は日本語訳、数字はページ数を表す。
- (5) Cardoso (1570) の『羅葡』部には *Ablepsia, latinè caecitas & inconsiderantia. Por causa desalentada.* とあり、『葡羅』部に *Inconsideração* の見出しはなく、この箇所のバレットの典拠は『羅葡日』であろう。以下のバレット辞書の例についても『羅葡日』に拠ったことがほぼ確実な例をあげた。
- (6) 「少なくとも」と言わざるを得ないのは、バレット辞書中の対応箇所を確定しきれておらず、またバレットの文字がしばしば判読しにくいためである。また19例中、綴りなどが若干異なるものの『羅葡日』が典拠と認められるものを含む。
- (7) 17例は正確な訂正と思われるが、*Postomis* は上述した不審な「訂正」であり、*Pascha, ae.* はカレピヌスにおいて *Pascha, atis* の語形変化は「近年行われているが正しくない」とされているので (*Calepinus*:901)、やはり根拠の不明な訂正である。

引用文献

(一次資料)

Anonymous (1570) *Ambrosii Calepini Dictionarium*, Lyons, Symphorien Berauld. (丸山徹氏所蔵リスボン国立図書館本フィルムによる)

Anonymous (1585) *Ambrosii Calepini Dictionarium Decem Linguarum*, Lyons, Etienne Michel. (リスボン国立図書館本フィルムによる)

Anonymous (1595) *Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum*, Amakusa, Collegio Iaponico Societatis Iesu. (オックスフォード大学本・フランス学士院本・ライデン大学本・ロンドン大学 SOAS 本はフィルムによる。旧北堂図書館本は東洋文庫影印(1950-52)による)

Anonymous (1605) *Ambrosii Calepini Dictionarium in quo restitendo, atque exornando haec*

- praestitum*, Venezia, Marc' Antonio Zaltieri. (リスボン国立図書館本フィルムによる)
- Barreto, Manoel (1606-1607) *Vocabulario Lusitanico Latino*, manuscript. (リスボン科学アカデミー図書館本フィルムによる)
- Cardoso, Jeronimo (1570) *Dictionarium Latino Lusitanicum & vice versa Lusitanico latinū*, Coimbra, Ioan Barrerius. (リスボン国立図書館本フィルムによる)
- (二次資料)
- Alvarez-Taladriz, J. L. (1958) 「ラウレス先生の『こんぺえ糖』『ビブリア』11、6-12 頁。
- Kishimoto, Emi (2006) “The Process of Translation in *Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum*”, *Journal of Asian and African Studies* 72, 17-26.
- Labarre, Albert (1975) *Bibliographie du Dictionarium d' Ambrogio Calepino (1502-1779)*, Baden-Baden, Valentin Koerner.
- Laures, Johannes (1957) *Kirishitan Bunko*, Tokyo, Sophia University, 3rd ed.
- 岸本恵実 (2002) 「キリシタン版『羅葡日対訳辞書』諸本の書き入れについて」『大阪外国語大学留学生日本語教育センター 日本語・日本文化』28、123-135 頁。
- 岸本恵実 (2005) 「キリシタン版『羅葡日辞書』とその原典」『国語語彙史の研究 第24集』和泉書院、(横) 45-61 頁。
- 岸本恵実・豊島正之 (2005) 「バレット著『葡羅辞書』のキリシタン語学に於ける意義」『日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開』汲古書院、(横) 247-306 頁。
- 村山七郎 (1966) 「レンングラードの拉葡日辞典」『順天堂大学体育学部紀要』8、138-189 頁。
- ラウレス、ヨハネス (1937) 「北平北堂図書館発見の日本耶蘇会出版にかゝる七冊」『歴史地理』70-4、11-32 頁。

本稿は、2008年9月16日(火)東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「宣教に伴う言語学」研究会(於同大学本郷サテライト)における口頭発表「キリシタン版『羅葡日辞書』正誤表に関する報告」をもとに大幅に加筆・修正したものです。ご教示を賜った方々に厚く御礼申し上げます。

本研究は、科学研究費補助金「キリシタン版羅葡日辞書の原典的研究」(若手研究(B)研究代表者・岸本恵実(18720120))による成果の一部です。

(きしもと えみ・国際基督教大学准教授)